

令和4年度

受賞者 (敬称略)

文化功労賞 伊藤 彩

文化功労賞 川田 京子

文化功労賞

い とう 藤 彩

- ※平成19年 Art Camp2007
サントリーミュージアム[天保山]
サントリー賞 受賞
- ※平成21年 アートアワードトーキョー
丸の内2009 準グランプリ 受賞
- ※平成23年 アートアワードトーキョー
丸の内2011 シュウウエムラ賞、
長谷川祐子賞 受賞
- ※令和3年 和歌山県文化奨励賞 受賞



Photo by Dai Fujimura a.k.a. Fujimura Family

昭和62年、有田市に生まれる。現在、宮原町在住。

平成23年に京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画を修了。現在は有田市とダブリンを拠点に国内外で広く活動され、「フォト・エスキース」と呼ばれる独自の手法を用いた絵画や立体作品を発表されている。

「フォト・エスキース」とは、まず、自身が制作したオブジェやモチーフを立体空間にコラージュする。そしてそれを様々なアングルから撮影し、写真の世界を写実的に絵画へ描き起こしていく手法である。こうして描かれる作品は、空想世界とリアリティが入りまじり、観るものを色彩豊かなストーリーに引き込んでいく。

もともとみかんに関わる仕事を生業としている家に生まれ、有田市・有田みかんに特別の愛着があり、果物や野菜などを描き込むことも多い。「観た人の感性で感じてもらいたい」、「意味あるものが溢れすぎている現代、無意味な存在があっても良い」という思いで「無意味」を追求した氏の作品は、独自の手法で観るものを楽しませる。

平成27年に和歌山県立近代美術館主催の「和歌山と関西の美術家たち リアルのリアルのリアルの」展に出展。空間そのものを取り込むような縦5メートル横21メートルに及ぶ圧巻の作品を制作され、話題を集めた。大学院在学中から所属する「小山登美夫ギャラリー」では5度、近年ではアイルランドや台湾、北京でも作品展を開催されるなど、幅広く活躍。

令和2年には初の作品集『RAPID RABBIT HOLE』を刊行。注目の若手現代美術家として、更なる活躍が大いに期待されている。

文化功労賞

かわ た きょう こ
川 田 京 子

(雅号：藤華)

藤華書道教室主宰

※平成27年 有田市文化奨励賞 受賞

※平成29年 第69回毎日書道展

近代詩文書 入選

※平成30年 第70回毎日書道展 近代詩文書、漢字Ⅱ類 入選

※令和元年 第71回毎日書道展 近代詩文書、漢字Ⅱ類 入選

※令和3年 第72回毎日書道展 近代詩文書 秀作受賞、漢字Ⅱ類 入選

※令和4年 第73回毎日書道展 近代詩文書、漢字Ⅱ類 入選



昭和48年、岡山県倉敷市に生まれる。現在、星尾在住。

大学では書道・国語の教職課程を修了。現在、市内3カ所で教室を開き、通えない方には通信講座にも取り組むなど、幅広い世代へ書を伝えている。

平成22年度から地域貢献の一環で「書道教室へ行けない子どものためにも」と、初島小学校でゲストティーチャーとして書写の実技指導を行われている。いつも笑顔でわかりやすく丁寧に指導し、それぞれの長所や個性を褒め、やる気を引き出してくれる授業で、児童や保護者にも大変好評である。

また、机上学習だけでなく、生徒たちと音楽に合わせ幅6m程の紙や立て看板にダイナミックな書を披露する「書道パフォーマンス」にも精力的に取り組まれている。紀文まつりonステージや平成28年有田市成人式のオープニング、令和元年有田市市政功労者表彰式など、多くの場所でパフォーマンスを披露し、「魅せる書」を伝えている。

さらに、毎日書道展の近代詩文書部門において秀作賞を受賞されるなど、自身の鍛錬や創作活動にも熱心に取り組まれている。「書道が上手な方だけではなく、誰もが見て分かるように」「見ていて楽しいものを広めたい」と、詩文書に力を入れ、書道の魅力を広く伝えるために尽力されている。

文化奨励賞受賞後も、平成29年の『有田市民会館完成披露式』や紀の国わかやま文化祭2021で上演された『市民参加劇 有田川』の題字揮毫など、多方面で活躍。書を通じてこれからの有田市を担う子どもたちの心身の豊かな発達の醸成や、地域の文化振興に大きく貢献されている。